

説得意図の検出が物語による態度変化に及ぼす影響

—物語説得モデルに関する考察—

石田 真理

物語が説得メッセージと同様に他者の態度を変える影響力をもつことは、複数の研究で実証されてきた。小森(2016)で示された物語説得の統合モデルでは、思考ルートと感情ルートの2つの説得ルートがあり、本研究では、物語特有の説得効果として、思考ルートの中の説得意図の検出の困難さを取り扱った。

先行研究より、映像媒体の物語に接触した条件では、非物語に接触した条件と比べて受け手が説得意図を検出しにくく、それによってリアクタンスが低下し、説得効果が高まることが実証された。しかし、文章形式の物語と非物語とで説得意図の検出に差が出るかどうかはわかっていない。

そこで本研究では、説得意図の検出に注目した上で、文章の種類による説得の効果を比較検証することを目的とする。また、小森(2016)の統合モデルより、2つのルートのうちどちらのルートで説得が起こったかを確認した。

本研究の仮説は、次の2つであった。

仮説 1: 物語形式の文章刺激は、ニュース記事形式の文章刺激よりも説得意図を感じさせにくい。

仮説 2: 物語形式の文章刺激を読んだ参加者の方が、ニュース記事形式の文章を読んだ参加者よりも態度変化量が大きい。

この仮説を検討するため、安楽死をテーマにした物語文章とニュース記事文章を提示し、複数の評価項目を設定して、質問紙調査を行った。調査の結果、実験 1 では仮説 1 は傾向としては一致していたものの支持されず、仮説 2 は支持された。実験 1 においては思考ルート・感情ルート両方の説得ルートが発生していた可能性があった。実験 2 では仮説 1・2 ともに支持されなかったが、物語文章を読んだ参加者には登場人物への共感など感情反応が見られたことから、物語移入が起こっており、それによる態度変化の傾向が見られた。また、実験 1・2 ともに説得意図の検出と参加者の心理的リアクタンスに相関はなく、先行研究は支持されなかった。

今後は、参加者に実験の意図を悟られない工夫を施したうえで、参加者の事前態度・説得の内容による影響を考慮する必要がある。また、物語説得を引き起こす他の要因も含め、物語説得モデルに関して引き続き検討を進めていくことで物語説得だけでなく、現実世界でのコミュニケーションの仕方についても示唆を得ることができるだろう。(社会心理学)